平成 20 年度後半期東北地区日産婦学会・医会連絡会　議事録

日　時：平成 21 年 2 月 15 日（日）

場　所：ホテルメトロポリタン仙台　「曙」

Ⅰ．日本産科婦人科学会東北連合地方部会（10:00～）

1．開会の挨拶　　岡村　州博

昨年は悪天候により多数のご出席をいただけなかったが、今回は晴天に恵まれ、多数のご出席を賜り、非常に喜ばしく思います。

2．議長選出

岡村先生を議長として承認。

3．報告事項

(1) 日産婦学会理事会報告　　岡村　州博、田中　俊誠

①会員数が少ないことについて：
新入会員数が増えたことは喜ばしいことである。今年度の入会者数約 420 名、女性比率 60%弱。
しかし、退会者も多いので、実質的には増えていないのが現状である。

②学術集会について：
次の学術集会において第 64 回学術集会が決まる。
現在 3 名立候補中である。候補者の中には地元で開催したいという希望があるが、8 会場固定のため、いずれかで行っていただく。
第 63 回は近畿大学の星合教授が主催することが決定した。

③大野病院事件：
福島地方裁判所で無罪が確定した。

④出産一時金：
吉村理事長と舛添厚生労働大臣が交渉し、４２万円に引き上げられた（暫定的に 3 年間）。
今後はどうなるかわかりかねるところです。

⑤法人制度改革について：
社団法人日本産婦人科学会の見直しに関して。
公益法人をめざしている。
監督官庁が厚生省から内閣府か都道府県に移行する。

（メリット）
財務上有利である（寄付など）。
学会の品格が上がる。

（デメリット）
地方部会が成り立たなくなるのではないか。
混乱して、諸団体との連携が成り立たなくなるのではないか。

（主な変更点）
財務状況を明らかにする。（現在は会計を明らかにしていない。）
地方部会という名称が使えなくなる。

【質疑応答】

●地方部会そのものが、なくなりはしないか。（水沼先生）

→本来、本部と地方部会は一体のものである。
本部のみ、または地方部会のみに所属などの混乱を招かないよう、覚書を作ることが必要。
（岡村先生）

→従来同じで名称だけが変わると思っていただけるとよい。（佐藤章先生）

●日医の場合、メリットからすると財団法人となってまで、高い会費を払う意味がないと考える若い医師が多いのではないか。（西谷先生）

→形式を崩すと維持できるかどうかが問題。
学会が公益性を有することができるように、連絡窓口だけという形になる。（岡村先生）

●名称の問題はどうなるか。（後藤先生）

→地方部会の名前をつけない方向で検討。
昨年、税務署が入ったおり、連結について聞かれ、別個のものとして理解してもらった。
現段階で、本部からも明確な答えは出されていない。（岡村先生）

⑥第 61 回学術集会について：
4/3～5、金土日の 3 日間となる。
演題採択率　８１％
木曜日に総会を開催するので、実質 4 日間となる。

(2) 各地方部会近況報告と新名誉会員該当者の報告、新功労会員推薦者紹介

各県支部から報告があった。

(3) 日産婦学会専門医制度中央委員会報告（資料 1）　八重樫伸生

専門医制度に関しては、このような日程で審査結果の報告をし、各県で審議の上、決定をお願いすることとした。
資料１-２は卒後研修医の登録状況。

(4) 第 127 回日産婦学会東北連合地方部会総会並びに学術講演会の準備報告　中川　公夫

（中川公夫先生）
日時：平成 21 年 6 月 6 日（土）、7 日（日）
会場：仙台国際センター
2 日目の午後は帰られる先生も多いため、コ・メディカルも交えての会にしたいと考えている。
研修医会は例年通り 1 日目の午前中に予定している。

(5) 第 129 回日産婦学会東北連合地方部会総会並びに学術講演会の準備報告 岩手地方部会

（鈴木　博先生）
日時：平成 22 年 5 月 22 日（土）、23 日（日）
会場：盛岡メトロポリタンホテル

(6) 第 57 回日産婦学会北日本連合地方部会総会並びに学術講演会の準備報告 宇都宮　裕貴
（宇都宮）
会長：札幌医科大学　斉藤　豪　先生
日時：平成 21 年 8 月 29 日（土）、30 日（日）
会場：札幌市教育文化会館

8 月 28 日（金）に恒例のスポーツ大会（野球）開催予定

(7) その他
（八重樫先生）
東北連合地方部会誌の作成に年間 200－300 万の経費がかかっている。
対費用効果を考えると、今後は会誌を作成せず、雑誌および会議の議事録などは PDF にして WEB 上にアップしていくようにしたい。

4．協議事項

(1) 第 61 回日産婦学会総会の総会運営委員会委員及び予算決算委員候補者の推薦について

（資料 2）

慣例により、運営委員は宮城県から、予算決算委員は持ち回りで次回の担当は福島県と青森県になっている。

各支部より推薦いただき下記のように推薦された。

運営委員

上原茂樹先生（宮城）

予算決算委員

幡　研一先生（福島）、藤井　俊策先生（青森）

(2) 理事候補者の選出について**（資料 3）**

岡村州博先生、佐藤章先生、田中俊誠先生は理事候補とならないため他の 4 名の教授の意向により候補を決めたい。

（水沼先生より）

常時宮城県から 1 名（八重樫先生）と、今回は最も長く就任されている倉智先生になっていただくのがよいかと思われる。今後は適宜交代していく形で選出するのが望ましいと思う。

（他の委員より賛同あり決定）

理事候補

八重樫伸生先生

倉智　博久先生

(3) 監事候補者の推薦について**（資料 4）**

監事候補者推薦

（田中　俊誠先生より）

岡村　州博　先生を推薦します。

（他の委員より賛同あり決定）

(4) その他

（八重樫伸生　先生）

東北ジャーナルのお知らせおよび投稿依頼

Impact factor 約 1.2、採択率３０％、レフリー20－30 日以内

産婦人科領域は八重樫が担当している

（岡村州博　先生）

SGI サミット　　11 月 12-14 日　仙台

（杉山　徹　先生）
　がん治療学会　　10 月 22-24 日　横浜
（水沼　英樹　先生）
　日本更年期学会　10 月 3，4 日　弘前
（倉智　博久先生）
　生殖内分泌学会　11 月 28 日　　東京